

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	兵庫県	市町村名	たつの市	大学名	
派遣日	令和令和3年9月14日(火曜日) 14:40~16:35				
実施方法	派遣 / 遠隔				
派遣場所					
アドバイザー氏名	大阪大学大学院言語文化研究科 講師 櫻井 千穂				
相談者	・ たつの市内小中学校の人権教育担当者 ・ 日本語指導が必要な園児・児童・生徒に関わる教職員 ・ たつの市多文化共生サポートセンター相談員 ・ たつの市教育委員会				
相談内容	1 日本語指導を必要とする児童の系統的な日本語指導のために、言語発達や言語能力の把握をどのように行えばよいか。 ・ 日本語指導が必要な児童生徒のつまずき ・ 実態把握の方法 2 日本語指導を行う際の教材の選定や指導方法の確立を行い、より効果的な指導を行うには、どのようなことを心がければよいか。 ・ 生活言語と学習言語の能力を伸ばすための効果的な指導法 ・ 在籍学級での指導を行う際の指導方法 ・ 児童生徒の学習環境の整備				
派遣者からの指導助言内容	1 文化的・言語的に多様な子ども (CLD 児童生徒) のことばの習得と教育の基本的な考え方 ・ CLD 児童生徒の受入れ…日本の常識が子どもの常識とはかぎらない。 ・ 子どもの言語学習と大人の言語学習は違うので、文法や漢字から教えていては、言語発達 (習得) が難しい。 ・ 子どもの言語発達は、聞く→話す→読む→書くの順でできるようになる。 ・ 意味のある活動や体験を通して、ことばを使いながら習得する。 ・ 母語と日本語の二言語に働きかける教育が必要なので、二言語を使って知的な活動を行う。 2 文化的・言語的に多様な子どもの言語能力評価の方法 (対話型アセスメント DLA) ・ 児童の現状把握を行い、中・長期的目標を設定して指導を行う。 ・ 「外国人児童生徒等のための JSL 対話型アセスメント」 (DLA) の目的について ・ DLA の構造、JSL 評価参照枠のどのステージにいるのか、現状把握をする。 ・ グループワーク DLA<話す>の動画を視聴し、児童の様子や評価実施者の工夫について話し合い、掲示板に記入した。 3 評価結果をふまえた指導・支援方法 ・ 日本語と内容の統合学習を進めるために、教科のなかでことばを育てる。 ・ 子ども自身を認め、アイデンティティを肯定する。 ・ 「内容」と「日本語」の目標を立てる。 ・ 具体的な指導・支援方法…多読の取組やユニバーサルデザインの授業づくり				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	1 児童生徒の実態把握 ・ 関係学校園所に「外国人児童生徒等のための JSL 対話型アセスメント」 (DLA) の紹介を行う。 ・ 兵庫県教育委員会作成の「日本語習得度確認シート」と「個別の指導計画」を配布し、児童生徒の実態把握に努める。 2 研修の充実 ・ 兵庫県教育委員会主催の日本語指導者養成研修会に参加する。				

(様式3)